技術者物語

Vol.9 2021

Touhoku Construction Engineer Story

ＩＣＴを駆使しながら
地域の安全・安心を
守ります！

※ICT=Information and Communication Technology

Drone

Automatic Control

3D data

写真提供：(公財) 仙台観光国際協会

東北建設業青年会

会長からのメッセージ

東北建設業青年会 会長
清水　隆成

東日本大震災の教訓を生かそう
～震災・復興10年　進もう！　次の東北へ～

東日本大震災から10年が経過しました。今の中学生・高校生の皆さんの中には、震災の記憶が薄れている人も多いと思います。

しかし、震災以降も熊本地震を始め大型台風など、かつて経験したことのない自然災害が頻繁に発生する傾向にあり、日本は世界有数の災害リスクの高い災害列島であることを実感せざるを得ません。

また、昨年から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、日本の経済・社会にも深刻な影響を与えています。一方で、コロナ禍を契機に東京一極集中から地方分散への機運が高まっています。地域の建設業は、医療従事者などと同じエッセンシャルワーカーとして、コロナ対策を徹底しながら仕事に精励しています。

東北地方は、食料やエネルギーなどの安定した供給基地であり、温泉を始めとする恵まれた自然、豊かな地域文化の宝庫です。

今、この愛するふるさとで地域建設業は大きく変わろうとしています。ICTやドローンを活用した情報化施工などにより、建設現場の生産性を向上させ、働く人の賃金アップや週休2日制の実現、そして現場の安全性向上を目指しています。

これからの地域建設業は皆さんが主役です。ぜひ私たちの仲間になってICTやドローンを使った新しい建設業に挑戦して下さい。そして、安全・安心な地域づくり産業として社会に貢献し、自信と誇りを持って地元で活躍しましょう。

「がんばろう！東北　がんばろう！建設業　進もう！次の東北へ」

CONTENTS

会長からのメッセージ
東北建設業青年会 会長　清　水　隆　成 ……01
建設業の主な資格・免許 ……01・02
青森　久保田　肇 暉さん ……03
岩手　佐々木　昌 市さん ……05
宮城　三　浦　萌 香さん ……07
秋田　高　橋　祐 衣さん ……09
山形　加　藤　芳 基さん ……11
福島　村　上　拓 矢さん ……13

建設業の主な資格・免許

土木工事業　管理系
- 1級土木施工管理技士
- 2級土木施工管理技士

舗装工事業　管理系
- 1～2級舗装施工管理技術者

建築工事業　管理系
- 1～2級建築士
- 1級建築施工管理技士
- 2級建築施工管理技士

型枠大工工事業　技能系
- 1～2級型枠施工技能士

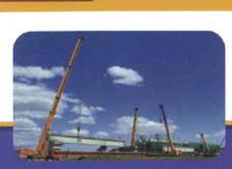
とび・土工工事業　技能系
- 1～2級とび技能士
- 3級とび技能士
- 足場の組み立て等作業主任

切断穿孔工事業　技能系
- コンクリート等切断穿孔技士

コンクリート圧送工事業　技能系
- コンクリート圧送施工技能士（1～2級）

機械土工工事業　技能系
- 1～2級建設機械施工技士

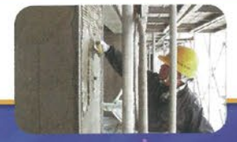
建設揚重業　技能系
- 移動式クレーン運転士



鋼構造物工事業　管理系
- 1～2級鉄骨製作管理技術者
- 建築鉄骨製品検査技術者
- 建築鉄骨超音波検査技術者

鉄筋工事業　技能系
- 1～2級鉄筋施工技能士

左官工事業　技能系
- 1～2級左官技能士
- 3級左官技能士



大工工事業　技能系　管理系
- 1～2級建築大工技能士
- 1級建築施工管理技士
- 2級建築施工管理技士
- 1～2級建築士
- 木造建築士

板金工事業　技能系
- 1～2級建築板金技能士
- 3級建築板金技能士

屋根工事業　技能系
- 1～2級かわらぶき技能士
- 瓦屋根工事技士

塗装工事業　技能系
- 1～2級建築塗装技能士

造園工事業　技能系　管理系
- 1級造園施工管理技士
- 2級造園施工管理技士
- 1～2級造園技能士

技術者物語
Aomori

サッカーで
学んだ洞察力
現場の動き察知し
無災害竣工を導く
司令塔

土木部土木三課主任心得
久保田　肇暉さん
Hazuki　Kubota
1995年1月生まれ。青森県十和田市出身。
2級土木施工管理技士

株式会社 福萬組
本社／〒034-0023
青森県十和田市東十三番町15-27
TEL.0176-23-4111　FAX.0176-24-0945
URL　https://www.fukumangumi.com/

先輩にたたき込まれた人の大切さ
安全・品質確保し、利益も生み出す

土木や建築の建設現場に欠かせない現場代理人（所長）。サッカーのポジションに例えると、攻守両方で重要な役割を担うミッドフィルダー（MF）と言えるだろう。福萬組で働く久保田肇暉さんは会社で現場代理人、サッカーチームではMFとして活躍している。

青森県十和田市で生まれ育った久保田さんは、幼少の頃から外で走り回って遊ぶのが大好きで、小学2年から始めたサッカーは社会人となった今も続けている。将来の夢は、サッカー少年なら一度は思う「プロのサッカー選手」。

学校では国語や数学といった座学よりも「体験することで学ぶことができる」図工や理科の実験が得意だった。中学時代は「一級建築士になって家づくりをしたい」と思うようになり、それがもう一つの夢となった。

進学に際しては、第1の夢に近づくため「とにかくサッカーを続けたい」と、県内のサッカー強豪校である三本木農業高校への入学を決めたものの、第2の夢の足掛かりとなる建築科はなかった。そこで選んだのが環境土木科だ。「中学3年の夏休みに体験入学して土木のイメージをつかんでいたので、多少興味もあった」と話す。

現在は社会人サッカーチームで活躍

充実した高校3年間はあっという間に過ぎ、進路選択を迫られることに。「高校を卒業したら働き、一人っ子の自分がゆくゆくは親の面倒をみる」と決めていたこともあり、県内就職の意思は固まっていた。そこに大きなチャンスが舞い込んだ。県内屈指の建設会社である福萬組から高校に十数年ぶりの求人票が届いたのだ。

進路指導の先生からも「これは大きなチャンス。入社試験を受けた方が良い」と言われ、素直に受験した。初めて会社を訪問した時のことを「なんてきれいな会社だろう。建設会社は土や泥で汚れているイメージがあったので驚いた」と振り返る。希望が叶い、2012年4月に入社した。

最初の現場で先輩にたたき込まれたのは「最初の1年は仕事よりも人（作業員）を覚えろ」ということだった。「先輩は作業員さんとは長い付き合いになるし、自分たちを助けてくれる人たちであることを教えてくれた。本当にその通りだと思う」。

所長デビューは、入社2年目。福萬組では「何でも早いうちに経験させてみる」という方針があり、大半の技術者は2―3年目に所長を任される。先輩のサポートはあったものの、工事発注者との打ち合わせや書類作成、作業員への指示出し、資材調達など、所長の役割は多岐にわたり「なんてやるべき仕事が多いのだろう」と思った。

それから約2年後には、先輩のサポート無しで着工から完成まで所長を務めることになった。現場は200㍍ほどの道路をアスファルトで舗装する工事で、多い時は10人～20人程の作業員が従事した。「自分の指示が間違っていたらどうしよう、工期に間に合うか」といった不安やプレッシャーを抱えながらも無事に工事を完成させた。この経験が大きな自信につながった。

一方、建設会社は工事を無事に完成させれば良いという訳ではない。安全と品質の確保はもちろん大切だが、利益を生み出して会社を維持・発展させる必要がある。その最前線が現場であり、現場を仕切る所長の役割だ。久保田さんは「現場の利益が会社の利益になり、それが最終的に自分たちの給料に反映される」ことも学んだ。

現在、入社8年目。これまで5つの現場で所長を務めてきた。最も工事費が高かったのは、国土交通省の工事で約2億円だった。今後は「発破（ダイナマイト）を使うような大きな現場を始め、幅広く色々な仕事をしてみたい」と意欲的だ。

サッカーは社会人チームで続けており、MFを任せられることが多い。「フィールドで良く動き、頭も使うポジション」を担う久保田さんは、建設業でも所長として現場をコントロールしている。

現場の1日

5:00	
6:00	6:00 起床 仕事の日はこの時間に起床。
7:00	7:00 出勤 安全運転で！
8:00	7:30 現場到着 作業内容の確認をしつつ作業員さん達が集まるまでまったり中。 / 8:00 体操・朝礼 作業員さん全員と体操。その後、きょうの仕事内容について朝礼で指示。今日1日安全作業で頑張ろう!
9:00	
10:00	10:00 休憩 10時と15時は休憩。作業員さんと色々な話で盛り上がり気付けば作業開始時間を過ぎている時も…。
11:00	
12:00	12:00 昼食 妻の手作り弁当で満腹。食後に仮眠をとる。寝坊しないようアラームセット完了。
13:00	13:00 仕事再開 安全工程打合せ。次の日の作業内容の確認及び資材等の段取。
14:00	
15:00	15:00 休憩 本日2回目の休憩。缶コーヒーでほっと一息。
16:00	
17:00	17:00 作業終了 現場の作業終了の確認後、事務所で書類整理。 / 19:00 帰宅 家まで気を抜かず安全運転。
18:00	
19:00	
20:00	20:00 夕食・入浴 お風呂上がりのビールが最高！
21:00	
22:00	
23:00	23:00 就寝 明日も早いので就寝。
24:00	

上司・先輩から一言

副社長 福島　司子氏

久保田くんは、入社2年目から現場代理人として立派に仕事をこなし、昨年は青森河川国道事務所発注の工事の現場代理人を務め、安全管理が高く評価されて表彰を受けました。将来期待の若手エースの1人です。

プライベートでは結婚もし、父親としての自覚が出てきて、さらに成長したように感じます。これから会社を盛り上げていく一員として、若手目線でのアイディアをたくさん出してもらいたいです。

2020年から当社では「社員満足度の高い企業」「選ばれる企業」「生き残る企業」の3本柱の目標を掲げております。

「笑顔」をモットーに常に進化し続ける企業として一緒に頑張ってもらいたいと願っております。

職場訪問

久保田さんが取材時に現場代理人を務めていた現場は、青森県発注の国道279号道路改良工事。地面を切り取って地盤面を低くする「切土」や、土を盛って地盤面を高くする「盛土」、そして現場でコンクリートを打設してつくる構造物「BOXカルバート」が主な工事内容だ。

地域の生活基盤を支える道路となるだけに「非常にやりがいのある仕事」だ。安全管理やコンクリートの品質確保を図りながら、無事に工事を完成させた。

教えて 建設用語！

BOXカルバート

地中に埋設される箱型のコンクリート構造物。下水や雨水を流す管路、道路、歩道、貯水槽、防水槽、共同溝、雨水浸透など、さまざまな用途に使用される。

Aomori

技術者物語
Iwate

建機操作から
3次元データ作成まで
何でもこなす
若きエンジニア

土木部
佐々木　昌市さん
Shouichi Sasaki
1996年5月生まれ。岩手県一関市出身。
車両系建設機械運転資格

株式会社 千葉建設
本社／〒029-0202
岩手県一関市川崎町薄衣字大平330-8
TEL.0191-43-2456 FAX.0191-43-3208
URL https://www.chiba-construction.co.jp/

復旧・復興で活躍する建設業にあこがれ入職
自ら先頭に立つ決意で大きく成長

岩手県一関市川崎町に本社を置く千葉建設は、70年以上にわたり建築・土木工事のほか、鶏舎事業などを展開している地域に根差した総合建設企業だ。その土木部で現場管理の仕事に携わっているのが、地元・一関市出身の佐々木昌市さんだ。

父親も祖父も建設技能者という〝土木一家〟に育ったが、子どもの頃は大好きな野球中心の生活だった。その佐々木さんが建設業界を志したきっかけは2011年3月11日に発生した東日本大震災だ。当時は「地元の野球強豪高校への進学も考えていた」という進路選択に悩む中学2年生だった。

震災では生活圏が内陸だったため、大きな被害は受けなかったものの、強い使命感を持って懸命に復旧・復興事業で取り組む建設業界の人たちの姿を見て「土木をやりたいという気持ちが一番強くなった」と、県立一関工業高校の土木科に進学。「震災がなければ工業高校には進学していなかったかも知れない」と振り返る。

高校入学後は学業に勤しむ一方、野球部に所属し、大好きな野球も続けた。部活動では「礼儀を徹底的にたたき込まれた」という厳しい指導のもと、3年時には副キャプテンという〝中間管理職〟の立場でチームを1つにまとめあげることに腐心した。「現場の監督に必要なコミュニケーション力や聞く力はそこで鍛えられた」という。

就職にあたってはリース会社に勤める親戚から「社員がみんないい人だから」と勧められた地元・千葉建設への入社を決めた。

15年4月の入社後は「時間は掛かるが職人さんと一緒に現場で稼ぐことを覚えてほしい」という会社の指導のもと、まずは重機のオペレーターとして経験を積んだ。「職人さんたちにはだいぶ怒られた」というものの、少しずつ打ち解けると同時に「父や祖父の仕事の内容、苦労なども今はわかる」と話す。

最初に配属された現場で建物の正確な位置を出すための丁張りをかける際、測量で高さを間違えるというミスを犯してしまう。幸い、大事には至らなかったものの「学校で習っていたことで、自分の能力を過信した」と猛省し、「わからないことがあればすぐ聞く。何度も確認することを習慣づけた」と、失敗を自らの成長につなげた。

現場管理としての本格的なデビューは19年。耕地の区画や用排水路、農道などを整備する『ほ場』の現場だったが、もともと厳しい工程だったところに台風19号が襲来。現場の誰もが意気消沈する中、「ここは自分が先頭に立って行動しよう」と決意した。これをきっかけに「自分の意見をしっかりと言えるようになった」。その変ぼうぶりは、周囲の誰もが「アイツは変わった」と認めるほどだったという。

この間、一関市と隣接する宮城県気仙沼市では、建設業界を志す

高校では野球部副キャプテンを務めた

契機となった震災復興事業に携わり「毎朝、現場に向かうたびに地元の人から応援の声を掛けてもらった」。さまざまな重圧で心が折れそうなこともあったが、建設業に対する期待の大きさを目の当たりにし、改めて仕事のやりがいを実感した。

仕事は現場での作業だけではない。建設業でICT（情報通信技術）の活用が進む中〝苦手〟だという数学やパソコンを克服して技術を習得。今では設計図から3次元の施工図面を起こし、パソコン上で現況測量や点群データなどを組み合わせて現場の進捗状況を確認できるようになり「ICTを最大限利用した土工工事を手掛けてみたい」と、明確な目標を掲げるまでになった。

「今はいろいろな知識を身に付けている段階」と謙虚に語る佐々木さんが、現在目指しているのが現場監督に必要な2級土木施工管理技術者の取得。自らのチームを率いて颯爽と現場を監督する佐々木さんの姿を見られる日が来るのは、そう遠くない。

現場の1日

- 6:20 起床 仕事の日はこの時間に起床。
- 6:50 出勤 好きな音楽を聴きながら運転。
- 7:40 現場到着 KY（危険予知）を記入。
- 8:00 体操・朝礼 作業員さん達と体操。その後、きょうの仕事内容の確認。
- 9:20 測量・重機仕事 基本は測量で位置出しや手元作業だが、場合によって重機に乗って積込みや振削作業をする。
- 10:00 休憩 みんなで一服しながら世間話。
- 12:00 昼食 現場事務所に戻りネットを見ながら昼飯を食べる。その後は、昼寝。
- 13:00 仕事再開 現場に戻り測量の準備をする。
- 15:00 休憩 本日2回目の休憩。
- 17:00 外仕事は終了 きょうの作業は終了 現場事務所に戻って書類作成や3次元設計データの作成。
- 19:00 帰宅・夕食 美味しい料理で体力回復。
- 0:00 入浴・就寝 明日も早いからお風呂に入って早く寝よう…と思ったけどYouTubeに夢中になってこんな時間になってしまった。(泣)

上司・先輩から一言

社長 千葉　智充氏

本来は現場を管理する立場だが、直接作業に触れ、職人さんたちと一緒に稼いだ経験は、この先に確実に生きるはずだ。

一昨年から本格的に現場の管理を任せているが、最初は一番若いこともあり、心が折れかけたと思う。本人がターニングポイントに挙げたように、1つの大きな壁を乗り越えたことで、仕事に取り組む姿勢や話し方、目つきなどが一目でわかるほどの劇的な変化を遂げて、ようやく自立した。

職人さんの心がつかめるようになり、現場代理人の入口に立ったところだ。今後は自分の名前で竣工検査を受けるなど、これまでとは違った〝辛さ〟も経験することになると思う。苦労しながらも一つひとつの壁を乗り越えて成長してほしい。

職場訪問

佐々木さんは、一関市を流れる北上川の排水樋門工事に携わっている。排水樋門は生活排水や雨水を堤防の中を通して河川に流す施設。平時は扉を開放しているが、洪水時は扉を閉めて逆流による浸水被害を防止する。

佐々木さんは現場で設計関係を担当。建設コンサルタントが作成した設計図面をチェックし、3次元データ化して施工用の図面を作成している。「責任は重大だが、自分で考えてできる仕事は楽しい」とその魅力を語る。

教えて建設用語！

樋門

堤防で守られている土地にたまった水（内水）を河川に排水したり、河川から農業用水を取水したりするため、堤防を横切って設けられる水路。水門をつけて水位を調整する。

Iwate

技術者物語
Miyagi

被災体験が導いた天職
地元・宮城を支える
〝Z世代〟土木女子

工務部
三浦　萌香さん
Moeka Miura
2001年11月生まれ。宮城県大郷町出身。

株式会社 佐藤工務店
本社／〒981-4337
宮城県加美郡加美町字長檀69
TEL.0229-67-2534 FAX.0229-67-2507
URL http://satokoumuten-1977.co.jp/

清掃した河川に清々しさ
入社１年で仕事にやりがい、醍醐味

「地元・宮城を支える仕事に就きたかった」。建設業界で働くことになった動機をこう語るのは、宮城県加美町にある総合建設企業・佐藤工務店に勤務する三浦萌香さん。新型コロナウイルスの感染が拡大しつつあった2020年4月から、18歳という若さで新建設人として歩き始めた若手のホープが、この道を選んだのは、東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災の経験からだった。

三浦さんは宮城県中部の大郷町で生まれた。幼い頃から身体を動かして遊ぶことが好きな活発な性格で「ケガばかりしていた」と振り返る。

元気いっぱいだった少女の将来を大きく左右した震災が発生したのは小学校3年生の時。当時、授業が終わり校内を掃除していた三浦さんを、地鳴りとともに激震が襲った。近くにいた教職員に身を引き寄せられ、頭をかばわれながら腕の中で数分間にわたる激しい揺れに耐えていたが「校舎が崩れて死んでしまうのでないか」と、死の危険を身近に感じたという。

緊張と希望いっぱいの入社式

校舎内から全校生徒とともに校庭へ避難後も、断続的に襲う余震への恐怖に涙しながら冬の寒空の下で家族が迎えに来るのを待ち続けた。

東日本大震災では、沿岸部に押し寄せた津波による被害の印象が強いが、実際には内陸部でもさまざまなインフラに大きな打撃を与えており、震度6弱を観測した大郷町でも一般家屋全体の約2割が全壊・半壊する被害を受けた。

三浦さんが、家族と無事に再会を果たし、安堵したのもつかの間、帰り道では損壊した建物や陥没した道路など、日常を一変させた災害の凄絶な爪痕を目の当たりにした。

この日を境に、三浦さんの心の中に「地域の復旧・復興を後押しするとともに、地域のインフラを支えたい」との思いが沸き起こった。父親が土木の現場で働いていたこともあって元々身近に感じていた建設業界に、より強く関心を持つようになった。

この思いを胸に、中学校卒業後は、宮城県立黒川高校の環境技術科に進学し、測量・調査などの建設関連や環境工学などを学んだ。

3年の夏休みには数多いインターンシップ対象企業の中から「地元企業で給与などの待遇も良かった」との理由から佐藤工務店を選択。その際、震災復興関連事業の一環となる三陸沿岸道路工事と河川護岸工事を見学し、「初めて見る大きな現場で作業員らに的確に指示を出す現場代理人の姿が格好良かった」とあこがれを抱いてそのまま同社を志望。無事に採用が決まり、20年4月からの入社が決まった。

希望していた地元建設業への就職が決まり、前途洋々たる未来が広がっていたはずの三浦さんの前に立ちふさがったのが、世界中で感染が拡大していた新型コロナウイルスだ。国内でも多くの企業が求人や社員への対応に頭を悩ます一方、新入社員側も不透明な先行きに不安が募る。その一人である三浦さんも固唾を飲んで同社の対応を見守っていたが、佐藤工務店は感染症対策に最大限配慮しながら新入社員講習を実施。その後、4月のうちに県内で稼働していた5現場の中から河川維持工事の現場に配属された。

現在も携わっている同現場では、監理技術者の補佐を担当し、出来形や品質管理、写真整理に従事している。働き始めの頃は学生気分が抜け切らず早起きするために「携帯電話のアラームを2、3分おきに掛けて起きていた」と苦笑い。仕事でも「年齢差があるベテラン男性作業員に声を掛けづらかった」ため、不安な思いをしたこともあったが、実際は無用の心配で誰もが気さくに声を掛けてくれた。

入社してからまだ1年足らずだが、通勤やドライブで現場周辺を通る度に「自分が関わることできれいになった河川の清々しさに疲れも吹き飛ぶ」と、建設業のやりがいと醍醐味を実感しつつある。経験不足から業務の遂行には苦戦を強いられる場面もあるが、「何でも安心して頼まれる技術者」を目指して、日々の業務に意欲的に取り組んでいる。

休日の1日

5:00	
6:00	
7:00	7:30 起床 いつもより1時間遅く起床。
8:00	7:50 朝食 朝はトーストを食べるのが日課。
9:00	9:00 外出 身支度をしてお買い物に。
10:00	10:00 買い物 買い物をする。
11:00	
12:00	12:00 昼食 皆でファミレスでランチ。
13:00	13:30 買い物 別の店に移動し買い物へ。
14:00	
15:00	
16:00	
17:00	
18:00	18:00 夕食 今日は皆がすきな焼肉。
19:00	
20:00	20:30 帰宅 仕事の準備やテレビをみたり。
21:00	
22:00	
23:00	21:30 入浴・就寝 明日からまた仕事なので早めの就寝。
24:00	

上司・先輩から一言

工務部主任 佐藤　弘康氏

入社した頃はとても静かでおとなしいイメージでしたが、実際は明るく元気な性格であり、 今では彼女のおかげで現場は活気にあふれています。

現場では技術者として工事写真撮影や整理、測量、安全関係など、積極的に仕事をこなしており、分からない事や疑問に思うことがあった場合は、すぐに聞いてくる努力家で弱音を吐くことはありません。朝も一番に現場事務所へ来ては清掃してくれるおかげで、とてもきれいな状況で仕事ができており感謝しています。

三浦さんには今後もいろいろな経験を積んでもらい、現場責任者として活躍できることを願っています。また、三浦さんの活躍により女性技術者の入社希望者の増加へつながることも期待しています。

職場訪問

三浦さんが現場デビューとなった現在の現場は、宮城県北部を流れる1級河川・鳴瀬川の河川維持工事。長さ約30㌔の広範囲を1年中365日にわたって安全に保つため、本流・支流の堤防やのり面の修繕、雑草の刈り取りなどを実施している。

雑草の刈り取り後は、適切に完了していることを写真で記録。大雨時には河川沿いの巡回などを経て、まちが冠水しないようにポンプ車で排水なども行っている。

教えて建設用語！

工事用黒板

工事写真を撮影する際に使う小型の黒板。工事名や工種、施工状況などを記入し、写真だけでは説明できない情報を補う。近年は電子黒板を使う企業も増えている。

技術者物語
Akita

バレーで鍛えた体と心
ボールを操縦機に
持ち替え
フィールド駆ける
ドローン女子

測量部
高橋　祐衣さん
Yui　Takahashi
1986年12月生まれ。秋田県大仙市出身。
2級土木施工管理技士

Takamitu 株式会社
本社／〒014-0207
秋田県大仙市長野字新山92-1
TEL.0187-56-3626　FAX.0187-56-4533
URL　https://www.takamitu3.co.jp/

サービス業で磨いたコミュニケーション力 女性の視点で建設業界に新風

「測量の仕事に就いたのは、まったくの偶然。ゼロからのスタートで、いまも分からないことは多いが、自分が測量した所に施設ができていく姿を見るのが楽しみ」と語るのは、高橋祐衣さん。建設業界には縁もゆかりもなかった高橋さんだが、現在はドローンを使った3次元測量にも取り組んでいる。

秋田県仙北町（現大仙市）で生まれ育った高橋さんは幼少の頃から活発で、陸上やソフトテニス、バレーボールなど、さまざまな競技に励むスポーツ少女だった。「何でも一番になりたいと思う、おてんばな子だった」と振り返る。特に小学6年から始めたバレーボールに夢中になり、高校も「バレーを続けたい」との理由から部活が盛んな秋田県立横手城南高校を選んだ。

しかし、高校の部活は想像以上にハードだった。土日もなく練習の毎日で朝練だけでなく、練習後の自主練にも取り組んだ。「つらいことも多かったが、チームの仲間と過ごした日々はかけがえのないものだった」と懐かしむ。

まな娘2人とスリーショット

それだけ打ち込んだ部活も3年の夏には引退。卒業後の進路を決めなければならなかったが「特にやりたいこと、就きたい仕事が見つけられなかった」という。その結果、サービス業・接客業への就職と退職を何度か繰り返すことになった。この間に結婚と出産・育児も経験した。

美容室のレセプション（受付）として勤めていた時、同じ空間で技術職として働く美容師にあこがれ「自分も何か手に職をつけて仕事をしてみたい」と思うようになった。

ハローワークに行き、そのような求人がないか探してみるが、そう簡単には見つからなかった。それでも通い続けているうち、測量補助の求人を見つけた。「何か引かれるものがあり、やってみたいと思った」。

そうして入社したのが地元の建設会社であるTakamitu（タカミツ）。測量部に配属され、上司の仕事を手伝うことになったのだが、何も分からない。そもそも高橋さんは、子どもの頃から文系タイプで「理数系は苦手」だった。

それでも「お給料をもらっているからには、頑張るしかない」と一念発起。土砂災害を防止するためにつくられた砂防ダムの点検や、豪雨により被災した堤防を復旧するための測量、水田整備に伴う境界測量など、東奔西走した。

しかし、高橋さんがそれまで経験してきたサービス業・接客業とは別世界。「人相手の仕事から自然相手に変わった。エアコンの効いた室内での業務とは違い、夏は暑く、冬は寒い。体のコンディションを保つことに気を配った」という。

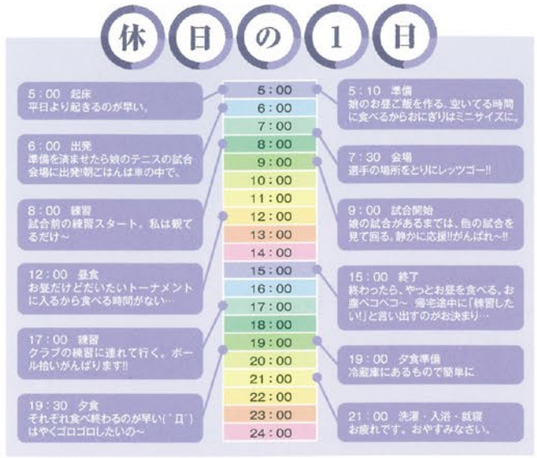
一方で「まったく人と接しないかと言えば、そうではない。上司を始め、さまざまな人たちとコミュニケーションを取らなければ仕事は進まない。サービス業での経験は無駄ではなかった」と話す。

今後、社会人になる高校生や大学生には、コミュニケーションの大切さを説くとともに「わからないことを教えてもらった時はメモを取ることが大事。自分は忘れっぽいのですぐにメモを取るようにしているが、入社したての頃は誰でもわからないことばかりだと思うので、取り組んでほしい」とアドバイスする。

現在、入社4年目。まだ一人前とは言えないが、少しずつ測量結果を基にした図面も描けるようになってきた。最近はドローンを使って3次元測量をする機会も増えている。「油断すると墜落させてしまうので緊張もするが、ドローンを飛ばすのは面白い」と目を輝かせる。

高橋さんは、秋田県仙北建設業協会の会員企業で働く女性たちでつくる「HANAMARU（はなまる）」の副会長も務めている。「建設業の仕事にも女性ならではの感性を生かせる場面がある」。技術職にあこがれ、回り道をして建設業に飛び込んだ高橋さんが、女性の視点と異業種の経験を糧に地元建設業界に新風を吹き込む。

休日の1日



上司・先輩から一言

測量部 菊地　貴志氏

高橋さんは、入社して4年目になり、主にi-Constructionに関わるUAV（ドローン）での撮影、TLSによる計測・点群処理を担当している他、測量業務全般にも携わっています。

全く違う分野からの転職ということもあり、苦労も多かったと思いますが、特に3次元計測の業務では一人で仕事を任せられる程に成長してくれました。

まだまだ女性が少ない業種で、苦労することもあると思いますが、地元建設業協会女性部会にも積極的に参加し、他社の女性技術者さんと交流を広げて意見交換をしてくれていることも頼もしい限りです。

休日は子どもの部活動の練習や遠征の引率などで忙しいと思いますが、今後も仕事と家庭を両立しながら頑張ってほしいです。

職場訪問

高橋さんが所属する測量部の仕事は幅が広い。ある業務では地図作成や各種測量の基準となる基準点を設置し、別の業務では地形を測量。近年は、ドローンを使った工事進捗の撮影も行っている。

いずれも「正確さが求められる仕事」とあって、高橋さんはいつもメモを取りながら間違いのないように作業している。現場で観測したデータを専用ソフトに取り込み、解析して各種図面を作成するのも測量部の仕事だ。

教えて建設用語！

3次元レーザースキャナー

計測対象にレーザーを放射状に照射することで、表面形状の3次元座標を取得できる計測機器。毎秒数万点という速度で計測し、高密度で面的な点群データが得られる。

Akita

技術者物語
Yamagata

ピッチャー経験で度胸
所長のプレッシャーも
何のその
現場で躍動する
若きエース

建築部技師
加藤　芳基さん
Yoshiki Kato
1995年10月生まれ。山形県庄内町出身。
2級建築施工管理技士
2級土木施工管理技士

大井建設 株式会社
本社／〒998−0875
山形県酒田市東町2−1−7
TEL.0234−22−7322　FAX.0234−26−0442
URL　http://www.ooi-kensetsu-sakata.co.jp/

同級生の活躍ぶりにライバル心 「自分の家を自分で建てる」目標へまい進

山形県酒田市の大井建設で建築技術者として働く加藤芳基さんは、祖父が大工をしていたこともり、幼少時代から建築の世界に親しみを感じていた。中学生の頃には「将来、自分の家を建てる」という目標を立てていたという。

山形県余目町（現庄内町）に生まれた加藤さんは、幼い頃から活発で、隣に住む同級生と外を駆け回る毎日を過ごしていた。小学4年の時にスポーツ少年団で始めた野球は高校3年まで続けた。

進学した高校は、鶴岡市にある鶴岡工業高校。野球部は創部100年の歴史と伝統があり、かつては甲子園に出場したこともある強豪校だ。練習は早朝から始まる朝練、放課後は日が暮れるまで続き、ほとんど休みもなかった。「厳しい練習を耐え抜いたから今の自分があると思う。ピッチャーを経験したことで度胸も付いた」と振り返る。

建築システム科で学業にも励んだ。木材の継ぎ手加工や小さな茶室づくり、製図などの授業を受けているうちにどんどん建築への興味が大きくなり「難しいところが逆に面白い。建築を生涯の仕事にしよう」と決意した。

最初は首都圏の建設会社への就職を希望していた加藤さんだが「友人の大半が県内就職だった」ことや、「いつかは長男である自分が親の面倒を見なければ」との思いから地元就職に方針を転換。インターンシップに参加した際に「仕事のスケールが大きく、現場が楽しそう」と感じた大井建設の入社試験を受け、見事合格した。「建築の世界に進むきっかけをつくってくれた祖父も喜んでくれた」という。

入社後、最初に携わったのは工場の増築現場で、工事写真の撮影方法や安全管理などを学んだほか、積極的に現場作業も経験した。「どの作業がどのくらい時間が掛かるか理解していないと現場管理はできない」という理由からだ。

加藤さんが携わった現場の中で、最も規模が大きかったのは酒田市発注の斎場新築工事。入社5年目の頃で、工事写真の撮影を一手に担った。「撮影する場所と回数が多く『撮り忘れたのでもう一度』という訳にもいかないため、スケジュール管理が難しかった。自分ではそれなりに経験を積んできたつもりだったが、まだまだ覚えることは多い」と少し落ち込んだ。

ちょうどこの頃、他の建設会社に入った高校の同級生の活躍ぶりが耳に入り「自分も頑張らなければ」と奮起した。

所長（現場代理人）デビューのチャンスはすぐにめぐってきた。新築した斎場の隣にあった古い火葬場の解体工事の所長を任されたのだ。工程管理や安全管理など、所長にのしかかる責任は重く、その分の確認作業が多くなった。

こうした規模の大きな工事や責任の重い仕事の積み重ねが「自分を少しずつ成長させてくれた」と実感している。

屋外の作業が多く、悪天候が続けば工程が遅れ、プレッシャーの掛かる時もあるが「建物が完成した時、お客さんから感謝の言葉を掛けてもらった時にやりがいを感じる」という。

仕事は朝6時半に自宅を出て、現場の確認や朝礼の準備を行っている。はたから見ればきつそうだが「早起きは、野球部の朝練で慣れている。あの頃と同じように好きなことをやるためだから苦にならない」ときっぱり。揺るぎない強固なマインドは部活での厳しい練習のたまものだ。

入社7年目の現在、目下の目標は1級建築施工管理技士の資格を取得することだ。次回の試験は2級資格の合格後5年以上という実務経験の要件を満たす。「1級の資格を取って独り立ちし、より多くの人に使ってもらえる建物づくりにチャレンジしたい」と意気込む。

昨年9月に結婚し、守る家族ができたこともあり「設計の勉強もして、建築を志すきっかけとなった『自分の家を建てる』という目標を達成したい」と公私ともに順調な〝リア充〟を励みに、幼い頃からの夢の実現にまい進する。

休日の1日

上司・先輩から一言

専務 大井　慎一郎氏

加藤芳基くんは2014年に鶴岡工業高校建築科を卒業し、ものづくりを志して当社へ入社しました。入社後は酒田市の斎場建設工事や、山形県で初となるウイスキー蒸溜所建設工事などを先輩社員の補佐として担当し、現在はそれらの経験を活かして火力発電所維持修繕工事全体の現場責任者を務めています。

真面目で、何事にも興味を持って取り組み、お客様や同僚社員からも信頼されています。今年から1級建築施工管理技士を受験できるので、合格して自身のスキルアップにつなげ、さらに後輩社員の手本となってほしいです。

建設業はこれからも地域から必要とされる職務なので、様々な工事施工を通じて地域社会に貢献してもらいたいと期待しています。

職場訪問

加藤さんは、酒田共同火力発電所構内にある制御室の外壁を補修する工事の現場代理人を務めている。具体的には外壁の補修・塗装や屋上防水の修繕、屋根折板の交換などを行う工事だ。

例えば外壁は、劣化個所をはつり（削ったり、穴を開けたりすること）、その部分に補修モルタルを充填し、さらに塗装を施す。個所ごとに補修するか否かを発電所の担当者に提案し、協議を重ねて施工方法を決定している。

教えて建設用語！

トランシット

角度を測る器具の一つで、主に水平角や高低角の測定に使用する。水平分度盤と鉛直分度盤を持つ架台上に、自由に回転できる望遠鏡が取り付けられている。

技術者物語
Fukushima

誠実な働きぶりで急成長
〝イクメンパパ〟が
目指すは
頼られる技術者

工事部
村上　拓矢さん
Takuya　Murakami
1987年10月生まれ。福島県郡山市出身。
2級土木施工管理技士

株式会社 二嘉組
本社／〒963-1633
福島県郡山市湖南町福良字家老9401
TEL.024-983-2152　FAX.024-983-2305

土木は社会に貢献できる仕事
〝転職〟し、やりがいある〝天職〟に巡り合う

仕事が自分に合うか合わないかはやってみなければわからない。本編の主人公である村上拓矢さんは、少し遠回りして建設業界に飛び込んだが、だからこそ、この仕事がいかに自分に合っているかを実感できているようだ。

村上さんは1987年10月、郡山市内の病院で3兄妹の末っ子として生まれた。小さい頃からゲームなどにはあまり興味がなく、外に出て遊び回る活発な子どもだった。小学5年生の時、スポーツ少年団でソフトボールに取り組んだことをきっかけに野球が好きになり、中学では野球部に入部。3年間グラウンドで白球を追い続けた。

高校進学時には「県立で入れる高校」と特に気負わず、郡山市に隣接する須賀川市内の福島県立清陵情報高等学校の情報処理科に入学し、パソコンのプログラミングなどを学んだ。

高校では部活動を行わずアルバイトをしていたが、飲食店に勤めたことをきっかけに「料理するのは格好良いかも」と思い立ち、高校卒業後に調理師専門学校に入学。1年間の勉強で調理師免許を取得し、結婚式場に勤務。仕事自体は苦にならなかったものの、指導という名で手が出る〝職人気質〟の厳しい世界を目の当たりにしたことで「自分がこの世界で将来に渡って働くイメージを持てなかった」と、1年半で退職した。

人生初の挫折を経験した村上さんだが、心を切らすことなく「すぐに働いてお金を稼がなければ」とジャンルを問わず仕事を探し、間もなく求人のあった産業廃棄物処理施設で職を得た。「汚れ仕事ではあったが、社会のためになっている」と、真面目に働いていた村上さんだったが勤務から約6年を経て「ただ作業をしていればいいという感じで働きぶりを評価されることもなく、やりがいがない」と感じるようになったという。

この間に結婚し、第一子が生まれるなど、守るべき家族ができたことも村上さんの背中を押し、仕事関係の知人から紹介された二嘉組にハローワークを通じて応募。社長、総務課長との面接で「ぜひ入ってほしいという雰囲気」に共鳴し、翌日からの勤務が決まった。

入社後は、短期間の除染現場を経て下水道工事に配属された。最初の仕事は4ﾄﾝダンプの運転。大型車両の運転は初めてだったが「乗らなければ覚えられない」と連日運転して操作感覚を鍛え上げた。

初めて携わった土木の仕事を通じて村上さんにある思いが芽生える。「インフラを整備することで自分も地域の皆さんに貢献することができている」という充実感だ。

前職の時から〝社会のための仕事〟を意識していた村上さんだが、二嘉組に勤めて「土木は社会に貢献できる仕事だと気付いた」。やりがいは意欲につながり、多くの現場で経験を積みながら2級土木施工管理技士の資格を取得し、現場代理人として既に6現場で施工管理を任されてきた。

もちろん経験のない工種はわからないことばかりだが、入社間もない時期の大型車両の運転同様「やらなければ覚えられない」という実践的な指導方針の下、新たなスキルを着実に身に付けてきた。

村上さんが全力で仕事に打ち込めるのも、ほとんどが地元・湖南町出身という、気心の知れた諸先輩のバックアップがあるから。第二子出産時には2週間の育児休暇の取得が認められるなど、福利厚生面の充実も安心して働ける要因の一つだ。

休日には〝イクメンパパ〟として家庭を助け、仕事では毎朝一番に出社し準備を怠らない誠実な働きぶりで、公私ともに信頼を得ている村上さんが目指すのは「みんなに頼られ、聞かれれば何でも答えられる技術者」。転職し、社会貢献できるやりがいのある〝天職〟に巡り合った村上さんが、理想の技術者像にたどり着く日は、そう遠くない。

自他共に認めるイクメンパパ

現場の1日

5:00 起床 仕事の日はこの時間に起床。	6:40 出勤 会社まで40分かかるのでこの時間でいつも出発。
7:20 会社到着 会社に到着、メール、仕事内容の確認。	8:00 体操・朝礼 作業員さん全員とラジオ体操。その後、きょうの仕事内容について朝礼で指示。
10:00 休憩 10時と3時は15分の休憩。	12:00 昼食 弁当を食べて15分ぐらい仮眠。
13:00 仕事再開 仕事再開。仕事が効率よく進むように作業員さんに指示。	15:00 休憩 本日2回目の休憩。作業員さんと世間話をしながら一息。
17:00 仕事終了 作業終了。会社に帰って書類づくり。	19:00 帰宅・夕食 家族と夕食。子供二人の世話をしながらだと夕食も大変。
20:00 入浴 子供達と一緒に入浴。子供の笑顔を見ると疲れも忘れる。	22:00 就寝

上司・先輩から一言

総務課長 磯貝　収子氏

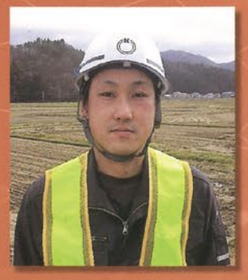
村上さんの良いところはたくさん知っていますが、何より素晴らしいのは真面目で誠実なことです。会社の始業は8時なのですが、いつも7時頃には出社して仕事の準備などをしています。社員のほとんどが地元の湖南町在住者であるのに対し、郡山市街地に住み、車通勤で40～50分程度と、最も時間が掛かる村上さんが一番早く、その熱心な取り組み姿勢にはいつも感心させられています。

また、入社してまだ4年なのですが、大変な勉強家で既に2級土木施工管理技士の資格を取り、入社3年目から現場代理人も任されています。まさに会社期待のホープです。将来的には会社の中心になっていただきたいし、なれる人材だと思っています。

職場訪問

村上さんの職場は、福島県発注の災害復旧工事現場だ。2019年10月に発生した台風19号により損壊した河川堤防や道路を復旧する工事で、現場代理人（所長）として現場の施工管理をしている。

今後、大雨による増水で河川堤防および道路が損壊しないように大型のコンクリートブロックを積んで復旧する。現場が3カ所に点在しているため、現場打ちコンクリートをプレキャスト製品に変えることで工期短縮を図っている。



教えて建設用語！

丁張り（ちょうはり）

土を掘ったり、盛ったりする際に使う目安の定規。等間隔に並べた木杭とそれに水平もしくは斜めに打ち付けられた板で構成されるのが一般的である。

発 行　東北建設業青年会
〒980-0824 宮城県仙台市青葉区支倉町2-48（宮城県建設産業会館5階）
TEL 022-263-9271　FAX 022-268-4293
http://www.miyakencenter.or.jp/rengoukai/seinenkai.html